

愛 労 連

愛知県労働組合総連合

名古屋市熱田区沢下町9-7

労働会館東館3F

TEL 052-871-5433

FAX 052-871-5618

URL http://www.airoren.gr.jp

発行人 樽松 佐一

第105号 2002年4月10日

働くものの団結で生活と権利を守り、
平和と民主主義、中立の日本をめざそう

第73回愛知県中央メーデー

とき 5月1日(水) 10:00開会

ところ 白川公園(名古屋市中区)

地震対策

行政と住民が手を取りあって

新城市長と愛労連議長が懇談

新城市長

山本芳央さん

愛労連議長

見崎徳弘さん

わが町、ふるさとの振興を願って

昨年末、中央防災会議の「東海地震に関する専門調査会」は、東海地震の震源域が西側に50km拡大する修正を発表しました。これに伴い震度が6弱以上となる区域は、県内では名古屋市内をはじめ、長野県、山梨県の52市町村が新たに加えられました。また、マグニチュード8.1、8.4という東南海地震や南海地震などの発生予測も出される中で、巨大地震への緊急な対策が求められています。

こうしたもとで、県下では先進的な対策を進めている新城市の山本芳央市長を愛労連の見崎徳弘議長が訪ね、防災について懇談しました。

見崎 市長は、新城市長になられる前の県会議員時代から地震対策の問題に情熱を傾けてこられたと聞いていますが、どうしてなのでしょう。

山本 私は、地域の振興をずっと願って、多くの人にすんでもらおう、工場にも学校にも来ていただく、道路も造ってもらおうと働いてきたわけですが、地震防災対策強化地域の指定を受けて、住民の皆さんに安心して住み続けていただくことが必要です。

見崎 今回、震源域の見直しがされて、名古屋をはじめ愛知県の西部でも震度6弱以上という地域に指定されています。私たち労働組合としても組合員とその家族をはじめとする住民の安全・安心な生活を守っていくために何をしておいても頑張らなければいけないと思っ

防災対策を地域から、家庭から

山本 まずは、住民の皆さんが自分の身は自分で守るという構えが一番大切だと思います。そして、行政は皆さんの意識喚起のために啓発をし、地震が来たときには対処できる体制を作っていくことだと思います。

毎年、防災計画を作ると同時に、行政だけでなくあらゆる関係機関のみならずにもご協力いただいて防災会議をもっていますが、訓練という面では、避難場所の確保と同時に避難活動、炊き出しやけが人の応急処置などやってきましたし、

山本 まずは、住民の皆さんが自分の身は自分で守るという構えが一番大切だと思います。そして、行政は皆さんの意識喚起のために啓発をし、地震が来たときには対処できる体制を作っていくことだと思います。

今年度からは、たとえばすべての市民が心臓マッサージをできるようにすることや消火器を使用できるようにすることなどを考えていますが、地域ごとにやられている防災訓練をさらに家庭の中にまで持ち込んでいくことで一歩前に進めたいと思っています。また、

不安を取り除くことが行政の役目
情報公開と正確な情報をいち早く

山本 私たちのところは中山間地ですので都市部の場合は詳しくわかりませんが、不安を取り除くことが一番大切だと思います。不安がパニックを引き起こすわけですから、建物でも防災力でも強化をするわけですが、やっぱり一人ひとりが、いざというときに対処できるという自信を持っていくことが一番大切だと思います。それから奥尻島の経験から学んだのですが、正確な情報をいち早くどう伝えるのかだと思います。私たちもさらに対策をすすめていくわけですが、これが決して地震だけでなく生活すべての面で安心につながっていくと思っています。



新城市でのとりくみを語る山本芳央市長



労働組合としてもとりくみを進めると見崎議長

阪神大震災をはじめ大きな災害地に視察にいつてきました。北海道の奥尻島や

あくまで地震が来ることを予知できるという前提なんです。北海道の奥尻島や阪神大震災をはじめ大きな災害地に視察にいつてきました。



1万5百余の全家庭に設置されている防災無線。屋外にも防災無線は設置されており、市内のどこにいても情報を得ることができ、行方不明者の捜索などにも力を発揮しています。

見崎 本場に貴重なお話をありがとうございました。

県下の地域メーデー

- 東三河地区メーデー 10:00開会 松葉公園(豊橋市)
- 安城地区メーデー 9:30開会 安城西公園(安城市)
- 尾張中部地区メーデー 10:00開会 春見公園(春日井市)
- 尾張東メーデー 10:00開会 宮川モール(瀬戸市)
- メーデー一宮地方集会 10:00開会 新柳公園(一宮市)
- メーデー尾北地域集会 10:00開会 中央公園(江南市) 予定
- 西三河メーデー前夜祭 4月26日(金) 18:30開会 知立市・中央公民館

いのちとくらし、雇用を守れ！



3月21日に開かれた春闘総決起集会には2400人、医療改善に反対する県民集会には4000人が参加しました。集会前にはチンドン屋も一緒に有事法制反対の宣伝が行われました。



仕事が原因だと思ってきました 住友電設ぜんそく過労死裁判で勝訴が確定

住友電設(本社・大阪市)で電気設備工事技師だった鈴木龍雄さんがぜんそくを悪化させて亡くなったのは、過重な仕事の原因であり労働災害であると妻の鈴木美穂さん(49)が労災認定を求めていた訴訟で、被告である名古屋東労働基準監督署側は、2審である名古屋高裁判決の上告期限である3月29日までに上告せず、美穂さんの勝訴が確定しました。

化や死亡の主な原因が業務によるものかどうかが争われ、1999年9月の第1審判決では「過重な業務がぜんそく悪化の相当大きな要因だった」と、全国初のぜんそく悪化による過労死を認定していました。

労働者のための 労働行政を

しかし、労基署側は控訴し、龍雄さんの妻の使いすぎや喫煙などを主張して争われてきましたが、先月15日、名古屋高等裁判所(大内捷司裁判長)は、過労死かどうかの判断基準について



3月15日、名古屋高裁で勝利判決を支援者に報告する鈴木美穂さん(左)

「バイトしてるけど有休なんて聞いていない」 青年協がストリート相談

3月31日、愛労連青年協は名古屋市中区の栄交差点においてアルバイトやフリー

ーターで働く青年たちに働くルールを知ってもらおうと「ストリート労働相談」を実施しました。このとり

うぞ」と相談を受け付けました。

くみは、全労連青年部の青年労働相談週間にあわせて行われたものです。働くものの権利をわかりやすく掲載した「新社会人のための権利手帳」と全労連青年部のピラを配布し、「どんなことでも気軽にど

ろ小公園でバンド演奏をしていた青年から、「マックで何年もバイトしているけど有休の話なんて一度も聞いたことがない」「水商売の店だけ日給が決まっていけない。売り上げが少ないときはゼロの時も...」「残業代がまともに出ない」などの相談がありました。



えッ！小牧に空中給油機？ 航空専門雑誌2誌が報道

中部新空港建設の裏で狙われる自衛隊小牧基地の強化



昨年、政府が配備を予定する空中給油機の機種をボーイング767に決定したことを受け、航空専門雑誌である「エアワールド」と「航空ファン」の3月号は特集を組みました。両誌

では、配備先について、①所属は航空支援集団隷下の輸送航空隊、②機数が少ないので日本の中央部、③中部新空港完成でスペースは充分、という理由から小牧基地をあげています。

空中給油機の配備は、①給油のための基地への往復時間を減らし、②離陸時の燃料減で兵器の搭載量を増加させ、③行動半径を拡大させる、などの「効果」があります。両誌は、F15戦闘機8機の搭載燃料が4割になっても満タンにできることを試算しています。しかし、その分危険も大

きくなります。搭載する燃料は最大規模になり、それは11万リットル(同機通常の2割増)にも及びます。また、767の輸送能力はC130Hより大きく、人員は倍以上の200人、搭載量が倍の40tでも航続距離は倍の5000kmでシシガポールまで直行できます。



三浦 修司さん
福祉保育 東海地方本部
どんぐり保育園分会
(取材時は、ひまわり保育園)

おぼます NO.3 福祉保育

「女性が大半を占める職種ですが、本当に大変な仕事ですよ」と語るのは、保育士として名古屋市昭和区にある民間のひまわり保育園に2年間臨時職員として働いてきた三浦修司さん(25歳)。この4月からは、晴れて

同じ法人が運営するどんぐり保育園の正規職員として働き始めています。三浦さんが保育士になろうと思ったのは大学2年の時でした。大学4年間を通して、夏休みには毎年、アルバイトで子どもたちの林間学校のお手伝いをしてきたのがきっかけ

「仕事をすると、体の健康には本当に気をつかうようになりました」と。三浦さんは、この1年の間にも2回腰痛を悩ませるを得なくなり

「病気になる」と本当に不安です。臨時職員のため賃金は時給で、病気やケガなどで休めばただちに収入に影響します。また、仕事を続けていけるだろうか迷ったとも言います。子どもたちとつきあっていく上でこんなこと

「4月から正規の職員として働きますが、本当に不安です。毎日」と語りますが、「毎日のことなんです。子どもたちが元気に遊ぶことができ、笑顔で親のもとに帰ることができたときは本当によかったなと思います」と。子どもたちとじっくり語り合っ印象的でした。

保育はゆくりゆくりと 臨時職員から正規に

やっぱり体が資本

子どもたちの 笑顔に支えられて

「仕事をすると、体の健康には本当に気をつかうようになりました」と。三浦さんは、この1年の間にも2回腰痛を悩ませるを得なくなり

「4月から正規の職員として働きますが、本当に不安です。毎日」と語りますが、「毎日のことなんです。子どもたちが元気に遊ぶことができ、笑顔で親のもとに帰ることができたときは本当によかったなと思います」と。子どもたちとじっくり語り合っ印象的でした。

「仕事をすると、体の健康には本当に気をつかうようになりました」と。三浦さんは、この1年の間にも2回腰痛を悩ませるを得なくなり